

美津濃(8022)

2025 年 7 月 10 日

執筆担当者：QUICK 企業価値研究所 前田俊明、園田三保

○会社概要

スポーツビジネスを幅広く手掛ける総合スポーツメーカー

1906年に創業した老舗の総合スポーツメーカーであり、幅広いカテゴリーのスポーツビジネスを手掛ける。同業大手に比べて携わるスポーツの領域が幅広いことが特徴の一つ。「より良いスポーツ品とスポーツの振興を通じて社会に貢献する」を経営理念としており、幅広いスポーツ領域にスポーツ用品を提供し続ける方針。

スポーツ用品としては、野球用バットやグラブ、ゴルフクラブなどの用具、各種スポーツ用のシューズ、ウェアなどを取りそろえ、対象顧客はプロ向けから一般向け、ジュニア向けまであらゆる層に提供する。売上高は国内のスポーツ用品関連企業の中でアシックス（7936）に次いで第2位。売上高の4割を北米、欧州、アジア・オセアニアを中心とした海外が占めるグローバル企業。

株価・指標

（表示単位未満四捨五入）

株価(25/7/9 終値)	2,685.0 円
年初来高値(25/2/7)	3,130.0 円
年初来安値(25/4/7)	2,077.0 円
連結 PER(26/3 期会社予想)	12.49 倍
連結 PBR(最新実績)	1.32 倍
基準 BPS	2,037.43 円
予想配当利回り(26/3 期会社予想)	1.86 %
1 株当たり年間予想配当金	50 円
普通株発行済株式数	79,735 千株
普通株時価総額	2,141 億円

» 売上構成（25/3 期連結、外部顧客への売上高）

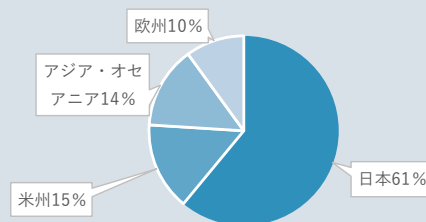
日本 61%、欧州 10%、米州 15%、アジア・オセアニア 14%。

» ビジネスモデル、事業戦略等

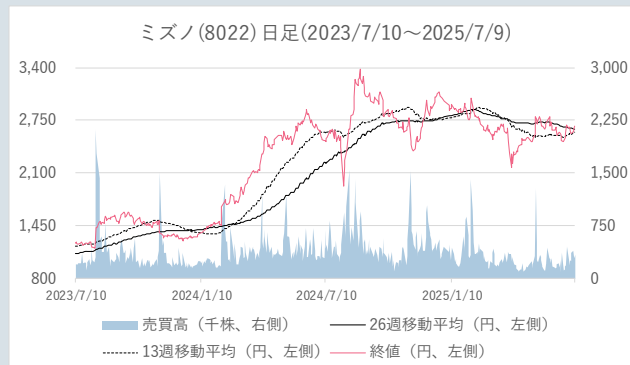
製品の製造拠点としては、中国、タイ、インドネシア、ベトナム、カンボジアなどアジアが中心で日本にも製造拠点がある。アジアの拠点では、自社工場や OEM 委託工場を通じてスポーツシューズ、スポーツウェア、ゴルフクラブなど同社グループの主力商品を製造している。

国内の販売経路は、スポーツ専門店や大型量販店、デパート、チェーンストア、EC 事業者などへの卸売りに加え、自社直営店や EC サイトでの直接販売がある。海外の販売拠点は、欧州、北米、アジア、オセアニアなどで現地法人、支店として展開しているほか、現地の販売代理店を経由して販売する。

売上構成



株価チャート



◇本資料は会社側の資料・見解および事実報道等を要約したものであり、執筆担当者自身の分析・評価および特定の見解を表明したものではありません。
◇本ページの図表の個別注記以外の説明および出所は、後掲の＜データの説明＞にまとめて記載しております。

※本資料のご利用に際して重要な事項を最終ページに記載しておりますので、必ずご確認下さい。

美津濃(8022)

2025 年 7 月 10 日

○業績動向

26/3 期は 8%増収、8%営業増益を見込む。過去最高が続く見通し

≫実績：25/3 期は 5%増収、20%営業増益。過去最高を更新

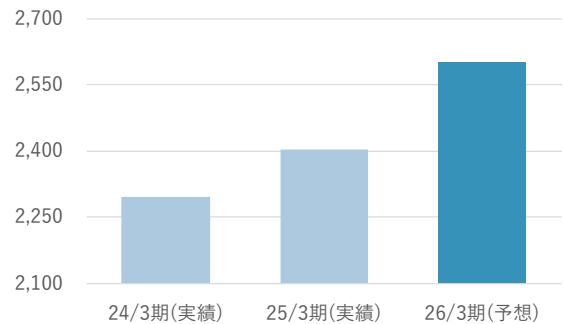
25/3 期の連結業績は、売上高が前期比 5%増の 2403 億円、営業利益が同 20%増の 208 億円となり、いずれも過去最高を更新した。国内はフットボール、バレーボール、ラケットスポーツなど競技スポーツ品の販売が好調に推移。海外もフットボールなどの競技スポーツ品など販売が伸びた。価格転嫁と在庫水準の適正化が進み、売上総利益率が改善した。

≫業績見通し：26/3 期は欧州で 3 割増収を見込む

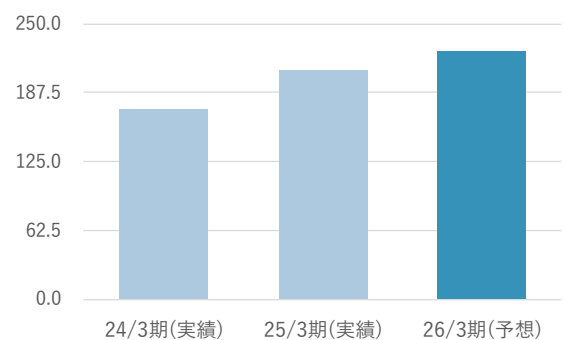
26/3 期の連結業績について会社側は、売上高 2600 億円（前期比 8%増）、営業利益 225 億円（同 8%増）を計画。いずれも過去最高となる見通し。日本は同 6%増収を見込み、海外は欧州で 3 割増収を見込むほか、米州、アジア・オセアニアともに増収を見込む。

同社の中期経営計画は 3 年間であるが、事業環境の変化などを考慮して毎期初に数値目標を見直している。初年度の 26/3 期以降、業績拡大を見込み、中計最終年度の 28/3 期に売上高 3100 億円、営業利益 280 億円を計画。成長ドライバーとなるのは、海外事業。各セグメント（リージョン）ともに日本を上回る売上高成長を見込み、特に欧州は 27/3 期まで 3 割成長を見込む。海外売上比率は、25/3 期の 39%から 28/3 期には 45%に引き上げる計画。

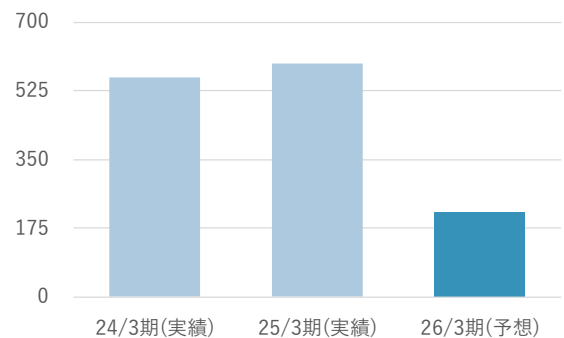
売上高(億円)



営業利益(億円)



EPS(円)



（出所）会社資料、QUICK Workstation で当研究所作成

業績データ 会計基準：日本基準

（ %は前期比増減率 ）

決算期	売上高(百万円)		営業利益(百万円)		経常利益(百万円)		純利益(百万円)		EPS(円)
連 24/3 期(実績)	229,711	8.3%	17,279	33.5%	19,288	37.4%	14,311	44.4%	559.71
連 25/3 期(実績)	240,335	4.6%	20,777	20.2%	21,352	10.7%	15,243	6.5%	595.97
連 26/3 期(予想)	260,000	8.2%	22,500	8.3%	23,000	7.7%	16,500	8.2%	215.02

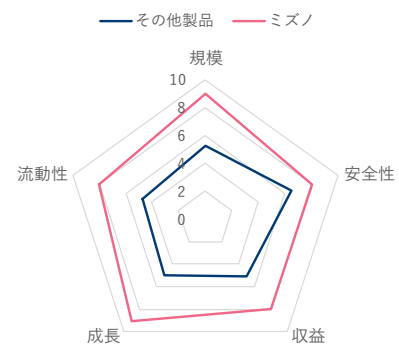
注：予想は会社予想。ただし、予想 EPS は会社予想純利益をベースに当研究所で算出している

美津濃(8022)

2025 年 7 月 10 日

○沿革、企業分析レーダーチャート

1906 年に「水野兄弟商会」を設立。1907 年に運動用ウェア、1910 年に野球シューズの製造・販売を始め、1913 年には野球グラブやボールの製造を開始した。1910 年に商号を「美津濃商会」に変更し、1942 年に現商号の「美津濃」とした。同社の正式な社名は「美津濃」だが、1987 年に対外的に使用する表記は「ミズノ」に統一されている。



（出所）QUICK スコア

<データの説明>

- ・株価高安値：表示期間中の株式分割等の影響は調整済み。市場変更があった場合には市場変更後の高安値を表示
- ・PER（予想）・PBR（実績）：PERは株価収益率、PBRは株価純資産倍率の略。PER（予想）＝株価÷EPS（予想）。PBR（実績）＝株価÷BPS（実績）。“－”（ハイフン）の表示はEPS・BPSがゼロもしくはマイナスの場合、EPS・BPSが非常に少額でPER200倍・PBR20倍を上回る場合、EPSの予想値がない場合、変則決算のためPER（予想）の算出が不適当な場合など
- ・EPS（予想）・BPS（実績）：EPSは予想1株当たり利益の略で、普通株主に帰属しない配当を控除した予想純利益を用いて算出。“－”（ハイフン）は利益予想がない場合。この算出に用いる株式数はQUICKが日々算出する直近の普通株発行済株式数（自己株式除く）を使用。BPSは直近実績の1株当たり純資産の略で、QUICKが日々算出する1株当たり純資産を使用。株式分割等の影響は遡及修正している
- ・配当利回り：1株当たり年間予想配当金÷株価。“－”（ハイフン）は配当金予想がない場合、変則決算の場合
- ・年間予想配当金：株式分割等の権利落ちがあった場合には遡及修正した1株当たり配当金を表示。“－”（ハイフン）は会社予想がない場合、変則決算のため年間配当金としての表示が不適当な場合
- ・普通株発行済株式数：QUICKが日々算出する直近の普通株発行済株式数（自己株式含む）を表示
- ・普通株時価総額：株価×上記の普通株発行済株式数
- ・株価チャート：表示期間中の株式分割等の影響は遡及修正済み。また、市場変更があった場合は新旧両市場の株価を連続的に描画している
- ・業績データ：会計基準の変更などに伴う過年度決算数値の遡及修正は会社が開示している範囲内で反映している。純利益は親会社株主に帰属する当期純利益。米国会計基準、国際会計基準において非継続事業が発生した場合は、原則として純利益を除き継続事業ベースの数値を表示
- ・企業分析レーダーチャートは、QUICKスコア（※）より以下の5項目を抽出。規模（企業規模の大小を表し、スコア値が高い銘柄ほど企業規模が大きい。構成要素：時価総額、売上高、総資産）、流動性（流動性すなわち売買のしやすさを表し、スコア値が高いほど流動性が高い。同：平均売買代金[25日]、売買回転率）、成長（企業の過去および将来における売上や利益、資産の成長性を表し、スコア値が高いほど成長性が高い。同：売上高成長率[3期平均]、経常利益成長率[3期平均]、総資産成長率[3期平均]、予想売上高伸び率[当期・日経予想]、予想経常利益伸び率[当期・日経予想]）、収益性（企業の収益性や利益率を表し、スコア値が高いほど収益性が高い。同：ROE[自己資本利益率]、ROA[総資産利益率]、売上高経常利益率）、安全性（企業の財務的な安定性を表し、スコア値が高いほど安全性が高い。なお、銀行など金融事業を営む企業は、事業の特性上、自己資本比率が小さく、安全性スコアも低くなる傾向にある。同：自己資本比率）を表示。

（※）QUICKスコア：国内上場全銘柄を対象に各スコアの構成要素の値を順位付け後、順位（グループ）を点数化したもの。点数は最上位グループを10とし、以降降順に付与。各項目に複数の構成要素が含まれる場合は、その全構成要素のスコア平均値を採用。

- ・売上構成はセグメント等で調整されることがあり、合計が100%とならないことがあります。
- ・出所：株価・チャート等はQUICKのデータベース。業績データ・予想配当金等は決算短信、有価証券報告書、その他会社開示資料

株式会社QUICKからのお知らせ

本資料は、本資料の対象会社、株式会社QUICKおよび野村インベスター・リレーションズ株式会社の3社間の契約に基づき、株式会社QUICKが作成したものです。

本資料の各ページに注記している通り、株式会社QUICKは、本資料の作成に当たり対象会社からスポンサー料を受領しているため、本資料の執筆者は対象会社から独立した立場にありません。

本資料の執筆者は、対象会社の公表済み事実・情報、並びに一般に入手可能な情報の範囲で、正確性・客観性を重視して本資料を作成しております。

なお、株式会社QUICKは本資料の正確性・客観性を確保する態勢を整備し、対象会社との契約においては、対象会社は事実誤認による記載についてのみ訂正を要求できるよう定めております。

免責事項

- ・本資料は、投資判断の参考となる情報の提供を唯一の目的としており、投資勧誘を目的とするものではありません。株式・債券等の有価証券の投資には、損失が生じるおそれがあります。投資判断の最終決定は、お客様ご自身の判断で行っていただきますようお願い致します。
- ・本資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて株式会社QUICKの一部門であるQUICK企業価値研究所が作成したものです。同研究所は、同研究所が基にした情報およびそれに基づく同研究所の要約または見解の正確性、完全性、適時性などを保証するものではありません。本資料に記載された内容は、資料作成時点におけるものであり、予告なく変更される可能性があります。
- ・本資料を参考に投資を行った結果、お客様に何らかの損害が発生した場合でも、株式会社QUICKは、理由の如何を問わず、一切責任を負いません。
- ・本資料に関する著作権を含む一切の権利は、株式会社QUICKまたは情報源に帰属しており、理由の如何を問わず無断での複製、転載、転送、改ざんおよび第三者への再配布等を一切禁止します。

野村インベスター・リレーションズ株式会社からのお知らせ

本資料は、株式会社QUICK、野村證券株式会社、野村インベスター・リレーションズ株式会社が共同で企画し、株式会社QUICKが作成、野村インベスター・リレーションズ株式会社が配信をしています。よって、本資料は、当社が正確かつ完全であることを保証するものではありません。使用するデータおよび表現等の欠落・誤謬等につきましては、当社はその責を負いかねますのでご了承ください。

本資料は、株式等についての参考情報の提供を唯一の目的としております。銘柄の選択、投資の最終決定は、ご自身のご判断でおこなってください。なお、本資料は金融商品取引法に基づく開示資料や外国証券情報ではありません。本資料は提供させていただいたお客様限りでご使用いただきますようお願いいたします。